



廃タイヤ(使用済みタイヤ)リサイクル状況及び 廃タイヤの不法投棄状況を取りまとめました。

1. 2022年廃タイヤ(使用済みタイヤ)リサイクル状況

1. 発生量

日本国内における2022年(1~12月)の廃タイヤ(使用済みタイヤ)の発生量は、「タイヤ取替時」「廃車時」の合計で、本数で9,200万本、重量で100万8,000トンと、前年と比較して本数で100万本、重量で2万1,000トン増加した。

① タイヤ取替時

「タイヤ取替時」の発生量は、本数で8,000万本、重量で89万1,000トンと、前年と比較して本数、重量ともに増加し、コロナ禍前の2019年と同等水準となった。

② 廃車時

「廃車時」の発生量は、本数で1,200万本、重量で11万7,000トンと、前年と比較して、本数、重量ともに減少した。2022年は新車販売が減少し下取り車も減少。廃車時の廃タイヤ発生量も減少となった。

2. リサイクル状況

2022年のリサイクル利用量は、原形加工利用が前年比113%、熱利用が同104%、輸出が同126%と、いずれにおいても前年比プラスとなった。リサイクル利用量の合計は前年より8万トン増加し、合計で98万4,000トンであった。

石炭等化石燃料の価格高騰により、代替燃料としての廃タイヤ需要が増大。また、今春の省エネ法の改正により、事業者は非化石燃料への更なる転換が求められることも廃タイヤの燃料需要を後押ししている。

3. その他

- ・当会が公表しているリサイクル状況は、日本国内で発生した廃タイヤ(使用済みタイヤ)の処理状況を把握するためのものであるため、ここには集計されていないが、近年、国内の熱利用先が海外から廃タイヤの切断品/破砕品を有価購入する状況が続いている。2022年の年間輸入量は約7万9,900トンで、前年に比べ約5,000トン増加している。
- ・廃タイヤの熱利用において、ビードワイヤー等の鉄素材を除去した破砕品の需要が増加しており、鉄素材は事前に分別されマテリアルリサイクルされていることから、今回から原形加工利用の「その他」の区分名を「その他(鉄原料を含む)」に変更し、これに含めることとした。
- ・廃タイヤから油やカーボンブラック等を取り出すリサイクルについて、従来はガス化炉により行われていた為、区分名を「ガス化炉(原燃料)」としていたが、このようなリサイクルを行う設備はガス化炉に限らないため、今回から「熱分解(原燃料)」とした。

以上

1. 廃タイヤ(使用済みタイヤ)のルート別発生量

	2018年			2019年			2020年			2021年			2022年									
	本数 (百万本)	重量 (千トン)	構成比(%)	本数 (百万本)	重量 (千トン)	構成比(%)	本数 (百万本)	重量 (千トン)	構成比(%)	本数 (百万本)	重量 (千トン)	構成比(%)	本数 (百万本)	重量 (千トン)	構成比(%)	対前年比(%)						
																本数	重量	本数	重量			
タイヤ取替時	82	892	85	86	81	884	84	86	73	806	85	86	77	854	85	87	80	891	87	88	104	104
廃車時	14	140	15	14	15	142	16	14	13	131	15	14	14	133	15	13	12	117	13	12	85	88
合計	96	1,032	100	100	96	1,026	100	100	86	937	100	100	91	987	100	100	92	1,008	100	100	101	102

2. 廃タイヤ(使用済みタイヤ)のリサイクル状況

	2018年		2019年		2020年		2021年		2022年		対前年比(%)	
	重量(千トン)	構成比(%)	重量(千トン)	構成比(%)	重量(千トン)	構成比(%)	重量(千トン)	構成比(%)	重量(千トン)	構成比(%)		
												重量
国内 リサイクル利用	更生タイヤ台用	51	5	51	5	46	5	50	5	53	5	106
	再生ゴム・ゴム粉	120	12	132	13	115	12	84	9	85	8	101
	その他(鉄原料を含む)	1	1	0	0	1	1	1	1	15	2	1500
	小計(A)	172	17	183	18	162	17	135	14	153	15	113
	製紙工場(燃料)	446	43	402	39	412	44	425	43	433	43	102
	化学工場等(燃料)	66	6	66	6	96	10	112	11	136	13	121
	セメント工場(原燃料)	64	6	70	7	69	7	73	7	81	8	111
	製鉄工場(原燃料)	14	1	18	2	16	2	17	2	0	0	0
	熱分解(原燃料)	61	6	56	5	10	1	1	0	2	1	200
	タイヤメーカー工場(燃料)	20	2	9	1	2	0	2	0	3	1	150
	中・小ボイラー(燃料)	3	1	2	1	2	1	3	1	5	1	167
	小計(B)	674	65	623	61	607	65	633	64	660	66	104
	中古タイヤ	148	14	158	15	141	15	133	13	168	17	127
	海外 輸出	原燃料用チップカットタイヤ	3	1	2	1	2	1	3	1	3	1
小計(C)	151	15	160	16	143	15	136	14	171	17	126	
リサイクル利用合計(A+B+C)	997	97	966	94	912	97	904	92	984	98	109	
埋め立て	1	1	1	1	5	1	11	2	14	2	127	
その他	34	3	59	6	20	2	72	7	9	1	13	
小計(D)	35	3	60	6	25	3	83	8	23	2	28	
合計(A+B+C+D)	1,032	100	1,026	100	937	100	987	100	1,008	100	102	

※数値は四捨五入しているため、各項目を合算した値は合計(小計)項目の値と一致しない場合があります。

2. 廃タイヤの不法投棄（残存量）状況 （2023年2月末調査結果）

1. 調査結果

	2022年		2023年					
	件数	重量 (トン)	件数	重量 (トン)	対前年増減			重量 (トン)
					件数		重量 (トン)	
				撤去 完了	新規 判明			
北海道	4	960	4	1,920	0	1	1	960
東北	20	3,890	19	3,875	-1	1	-	-15
関東甲信越	26	6,251	27	6,281	1	-	1	30
首都圏	9	1,830	9	1,819	—	-	-	-11
中部	3	3,650	3	3,650	—	-	-	0
近畿	1	2,000	1	2,000	—	-	-	0
中国	3	365	3	365	—	-	-	0
四国	1	73	1	73	—	-	-	0
九州	9	5,480	9	5,180	0	1	1	-300
合計	76	24,499	76	25,163	0	3	3	664

備考1：自治体が不法と認識しているもので、1件あたり1,000本以上の案件を集計

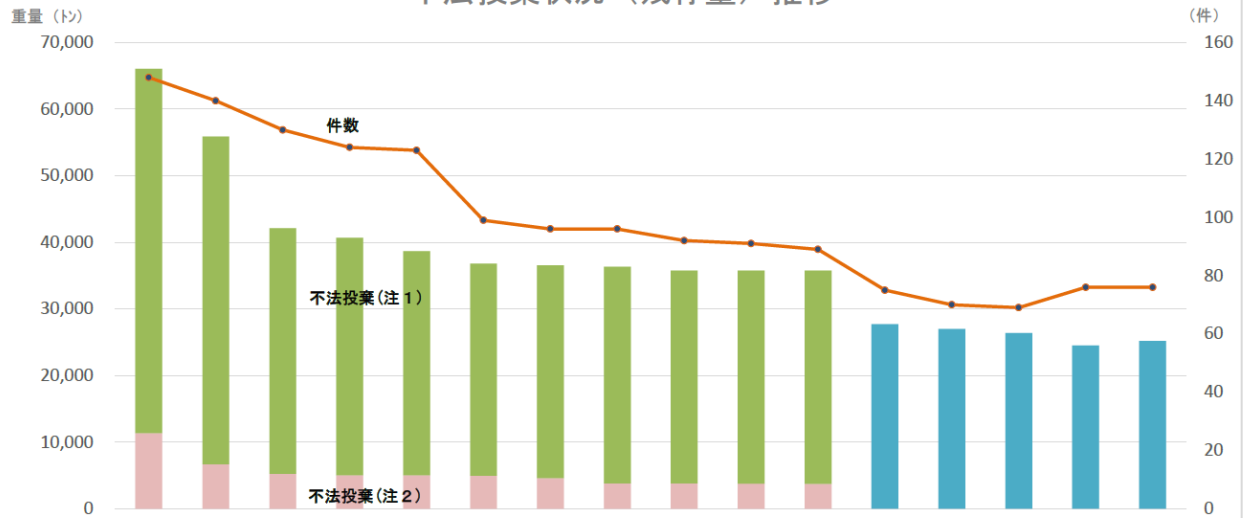
2：廃タイヤの重量は、10kg/本として集計

2. まとめ

2023年2月調査時の合計数量は、76件、25,163トン。

昨年との調査時と比較して、件数は同数（内訳：撤去完了3件、新規判明3件）、重量は664トンの増加となった。なお、3件の新規案件は、従来から集積されていた廃タイヤを自治体が不法投棄とみなしたことから新規に計上した。当会としては、長期的には不法投棄された廃タイヤの総量は、今後とも減少傾向に推移していくものと考えている。

不法投棄状況（残存量）推移



		2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
不法投棄	(注1)	54,670	49,231	36,858	35,693	33,669	31,831	31,948	32,535	31,944	31,966	32,026	27,677	26,991	26,363	24,499	25,163
	(注2)	11,350	6,648	5,241	4,996	5,008	4,948	4,589	3,794	3,784	3,775	3,745					
件数		148	140	130	124	123	99	96	96	92	91	89	75	70	69	76	76

注1：不法投棄のうち、行為者が特定されているもの(旧：不法集積)
 注2：不法投棄のうち、行為者が特定されていないもの(旧：不法投棄)

本件に関するお問合せ先
 一般社団法人日本自動車タイヤ協会 環境部 時田、高橋
 電話 03-3435-9092